

百日咳の流行

2009.04.03

感染症情報センターが毎週発行している感染症発行動向調査によると、全国で百日咳に罹る人（大人も子ども）が増えているとのことです。過去10年と比べて一番多い状態で推移しています。全国的に多いのは栃木県、徳島県で北海道は残念ながら3番目に多い県になっています（平成21年3月9日～15日集計分）。函館周辺でも平成19年は3人、平成20年は2人、平成21年はすでに3人の百日咳の報告があります。

百日咳は現在でも1年間に1万人程度発症するという子どもにとっては大変重篤な病気です。お母さんからの免疫がほとんど子どもに伝えられないので、生まれてからすぐにもかかってしまう危険性もあります。

症状は風邪と同じような咳で始まり、次第に強くなり、連続した短い咳となります。咳が長く続いたため終わったあとにヒューと息を吸う音が聞こえるのが特徴です。咳がひどくて呼吸が止まってしまうこともあります。診断には百日咳菌がのどから見つかることや百日咳に対する抗体価が上昇するなどが必要ですが、どちらも判断は難しいです。治療は早期に診断して、有効な抗生物質を飲んだり注射したりすることです。合併症としては肺炎や脳症などがあり、6ヶ月未満で百日咳に罹ると150人に一人の割合で死に至ることが知られています。

百日咳の流行を防ぐためには、3ヶ月からのワクチン接種（ジフテリア・破傷風・百日せき混合ワクチン。三種混合ワクチン）が有効です。現在多くの自治体ではポリオの接種が行われている時期ですが、期間限定だから先にポリオをと言う声に惑わされずに三種混合ワクチンを優先して受けることが肝要です。